

## 平成 30 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立大正東中学校協議会

## 1 総括についての評価

学習面や人権、防災に対する生徒の意識調査からは取り組みの成果が見られるので、共通テストなど学力についても大阪市平均に近づくように頑張ってほしい。

また、生活指導面でも、校内外ともに一定の落ち着きが見られていることが分かった。生徒の自尊感情や規範意識の育成のための取り組みを、引き続き行ってほしい。

家庭教育の重要性についても、学校からの啓発に力を入れてほしい。

## 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

## 全市共通目標（小・中学校）

○平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95 % 以上にする。

○平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について『当てはまる（どちらかといえば当てはまる）』と答える生徒の割合を 80 % にする。

○平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

○平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

## 学校の年度目標

○区役所担当者と連携して、南海トラフ地震等の大規模災害に備えて、備蓄倉庫、体育館、各教室を避難施設として整備する。

最近は、手を出すような厳しい指導はしないということだが、問題のある生徒が減ったわけではなく、先生方の苦労が良く分かるが、粘り強く指導を続けてほしい。特に、いじめについては、被害者を徹底して守ってほしい。

## 全市共通目標（小・中学校）

○平成 30 年度のチャレンジテストにおける標準化得点を同一母集団で比較し、いずれの学年でも前年度より向上させる。

○平成 30 年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年でも前年度より 1.5 ポイント減少させる。

○平成 30 年度のチャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年でも前年度より 1.5 ポイント増加させる。

○平成 30 年度の学校アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果において特に課題のある柔軟性と持久力についての平均の記録を前年度より 1.5 ポイント向上させる。

### 学校の年度目標

○ I C T 教育の充実を図るため、体育館、特別教室にプロジェクターを設置する。

学力面でも、体力面でも、大阪市の平均により近づけるためにしっかりと取り組んでほしい。

小学校との連携も大切にして、義務教育 9 年間の小中一貫した教育を子どもたちに行うとの観点を大切にしてほしい。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

学力や体力で、大阪市の平均により近づけるための取り組みを考え実施してほしい。

子どもの安全を守る取り組みにも、しっかりと取り組んでほしい。先生は教育のプロであるから、先生を信用して任せている。

地域として、学校のためにできる支援は惜しまない。

大規模災害に対する対策も、地域、関係機関と協力してしっかりと取り組んでほしい。